

## 指定管理者の期末モニタリング

施設名	宮代町立コミュニティセンター進修館及びスキップ広場	年度	令和4年度
指定管理者	NPO法人 MCAサポートセンター	担当課	町民生活課
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	期別	第3期
施設の目的	進修館は、市民活動や地域活動支援の拠点として、様々なジャンルのコミュニティ活動を通じ、町民の交流とコミュニティの増進を図り、自治と連携のまちづくりを推進することを目的とする。 また、スキップ広場は地域住民の憩いと活動の場を提供することによって、宮代らしい賑わいと魅力を創出し、もって地域の活性化を図ることを目的とする。		
業務の内容	(1)施設の運営に関すること。 (2)施設、設備及び物品の維持管理に関すること。 (3)施設の利用許可、変更及び利用の取消し、制限等に関すること。 (4)施設の利用料金の收受、免除及び返還等に関すること。 (5)市民活動の支援に関すること。 (6)施設の設置目的にあった自主事業の実施に関すること。 (7)その他施設の目的を達成するために必要なこと。		

<b>総合的な評価</b>	
【総合評価】	A優良 1 B適正 13 C改善 0
<p>当該施設は市民活動を支援する拠点施設として、適正に管理運営されていた。</p> <p>事業計画書に基づき、地元大学や市民団体と協力することで様々な事業を実施し、市民活動の活性化を図るとともに新たな利用者の発掘などもコロナ禍の中でも実施していた。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらずに長引いたため事業計画を再考する必要性が生じた場合については、遅れることなく町へ報告、相談するなど、連絡調整も適切に対応していた。</p> <p>第5次宮代町総合計画実行計画の進修館オープンカレッジについては、町との共催事業のため、事前調整会議により役割分担を明確にして実施したことで、適切に事業運営ができた。</p> <p>大学連携では、日本工業大学の複数の学部、教授、研究室と連携事業を展開し、相互にメリットを共有することでネットワークの構築と今後の連携関係を創出していた。</p>	
【評価事項】	<p>自主事業では、進修館だよりを活用したアウトリーチ事業により、自治会支援や様々な団体、企業とのネットワークづくりなど、新たな展開を図っていた。また、大学との継続的な連携関係を築いていた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症関連の利用制限等により、不測の事態が発生したものの町と協議の上、臨機応変に対応し、利用者の理解を得ながら大きな混乱も無く適切に管理していた。</p>
【改善事項】	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、ある程度制限が無くなるため、自粛期間前の活発な状態を取り戻すように今後の事業展開を期待する。</p>

<b>1. 施設の管理運営・事業</b>	評価	B 適正
<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置や大ホールがワクチン接種会場となる影響の中、業務要求水準書・事業計画書に基づき適切に管理運営業務を実施していた。</p> <p>R3-R4 進修館及びスキップ広場利用者数 53,160人(前年66,495人)前年比-13,335人 大ホール及び2階ロビー空調設備改修工事のため、6か月間貸出ができなかったことによる減。</p>		
<b>2. 利用者の公平確保</b>	評価	B 適正
<p>施設の貸出及び利用料金の徴収、免除申請等は条例及び施行規則に基づき、公平かつ適正に行われていた。</p>		
<b>3. 職員の配置、研修等</b>	評価	B 適正
<p>事業計画書に基づき適正な人員配置及び専門スタッフを配置し、事業を行っていた。また、新人研修等及びスタッフ会議を実施し、スタッフのスキルアップとスタッフ内部での情報共有化に取り組みサービス向上に努めていた。</p>		
<b>4. 施設の維持管理業務(清掃、植栽管理など)及び保守点検</b>	評価	B 適正
<p>施設管理部門の施設長のマネジメントにより、清掃及び施設点検を事業計画書に基づき適切に実施し、機能・安全面を確認する等、施設の維持管理業務は適正に行われた。また、利用者に対する配慮にも迅速に対応していた。</p>		

<b>5. 施設の修繕</b>	評価	B 適正
<p>利用料金収入の増額により、町と協議の上、利用者ニーズも踏まえた施設修繕や備品購入などを実施していた。また、日常の巡回・点検を行うことにより、軽微な修繕などは速やかに対応、緊急対応を含め施設利用に対して支障なく対応をしていた。</p>		
<b>6. 備品管理</b>	評価	B 適正
<p>利用料金収入の増額により、町と協議の上、適切に備品の購入や補充を行っていた。また、備品管理台帳において備品の増減等、適切に管理していた。</p>		
<b>7. 安全・危機管理</b>	評価	B 適正
<p>緊急対策マニュアルに基づき、管理責任者を中心に災害発生時の避難訓練などを行うなど、安全の確保のための避難経路の確認や危機管理に対するスタッフ研修を実施していた。</p>		
<b>8. 個人情報の管理</b>	評価	B 適正
<p>町個人情報保護条例及び施行規則に準じたマニュアルを整備するとともに、スタッフ会議及び研修を実施し、個人情報の管理を徹底していた。</p>		
<b>9. 利用者ニーズの把握・反映</b>	評価	B 適正
<p>進修館だよりの発行をきっかけにアウトリーチとして自治会や町内外の事業者への訪問活動を実施していた。また、利用者懇談会を開催し、進修館の運営について意見交換を行い、利用者ニーズの把握に努めていた。</p>		
<b>10. 自主事業の実施</b>	評価	A 優良
<p>事業計画書に基づく自主事業の中でも、コロナ禍で実施できる事業を工夫して展開していた。施設利用者に対しては、全館でWi-Fiが利用できるようにし、リモート業務やオンライン会議などの施設利用者のニーズへ対応した。2階ロビーでは、Free Wi-Fi環境を整備した。また、ホール利用サポートサービスを立ち上げ、ホール利用者のニーズに対応していた。</p> <p>2階ロビーのインフォメーション窓口については、空調設備改修工事のため、1階ボランティア室において案内業務を継続していた。</p> <p>昨年に引き続き「進修館だよりの」定期発行により「進修館百貨店」の掲載も増え、紙面を増やすなどの工夫により、発行数も伸びており、自治会への配布数も伸びている状況が見えた。</p> <p>また、この進修館だよりの配布時に広報活動と情報交換のため訪問し、地区、自治会長からの課題として聞こえてきた「自治会加入のメリットが感じられない。」や「自治会員同士の繋がりの希薄化」の解決の手法として、集会所におけるサロン開催事業を実施し、スマホサロンを実験的に開催して高評価を受けていた。「進修館ファンクラブ」では、象設計集団の設計で関係のある沖縄県今帰仁中央公民館との情報交換会をオンラインと会場参加型の併用開催で実施していた。</p> <p>第5次宮代町総合計画前期実行計画事業「進修館オープンカレッジ」では、進修館の修繕ワークショップを開催し、多くの方が参加していた。また、修繕に携わった方が継続的に進修館の今後の修繕に関わって行くこととなった。</p> <p>共催事業としては、進修館を活用した提案型の共催事業を公募し、いくつかの主体と様々な共催事業を展開していた。(みやしろおひな祭り、キャンドルナイト、1950年のバックス、へそたんけんin進修館2023、きっさこきっさ、BodyPrintAction2022)</p> <p>大学連携では、進修館アーカイブ事業やマイクラフト入門講座、360度動画制作などの様々な連携事業を展開し、日本工業大学とのネットワークを構築していた。</p>		
<b>11. 経費節減</b>	評価	B 適正
<p>清掃等は再委託せず、清掃スタッフにより業務を実施することでコストの削減に努めていた。また、施設設備の応急修繕について、専任サポートスタッフ等が実施することにより、コスト軽減を図っていた。</p>		
<b>12. 環境への配慮</b>	評価	B 適正
<p>館内の照明機器のLED化や環境に配慮した物品購入を実施していた。</p>		
<b>13. 利用者への情報提供</b>	評価	B 適正
<p>twitterやFacebookなどSNSを活用した情報発信により、施設のPRや利用促進を図っていた。また、施設貸出業務のシステム化により、ホームページ上での予約情報の更新頻度が上がり、利用者サービスの向上が図られていた。</p>		
<b>14. 会計管理</b>	評価	B 適正
<p>経理担当スタッフを配置し、指定管理業務経費及びその他の経費、団体運営経費を区分して適正に管理していた。</p>		